

2017 年度事業計画	2017 年度事業報告	来期以降への課題等
<p>1. 基本計画</p> <p>広島女学院ゲーンズ幼稚園は、キリスト教保育を実践する。キリスト教保育とは、</p> <p>『子ども一人ひとりが神によっていのちを与えられた者として、イエス・キリストを通して示される神の愛と恵のもとで育てられ、今の時を喜びと感謝を持って生き、そのことによって生涯にわたる生き方の基礎を培い、共に生きる社会と世界をつくる自律的な人間として育つために保育者がイエス・キリストとの交わりに支えられて共に行う意図的、継続的、反省的な働きである。』と定義する。「新キリスト教保育指針」：(一般社団法人キリスト教保育連盟編) 園聖句『成長させてくださったのは神です。(コリント I 3 : 6)』を基に、幼稚園は教育目標として次の 3 つを立てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども一人ひとりが、神様から愛されたかけがえのない存在であることを知り、受け入れられていることを感じる。 ○身近な自然や環境との関わりを通して、健康な心身を育み、豊かな情操を培う。 ○子どもが、お互いの個性の違いを認め合い、共に育ちあう。 <p>この目標を達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育の質の向上：新任教員の育成と「保育の宝箱」の質と量の充実 (2) 保育環境の整備：管理性、多様性、安心度、主体性、機能性、統一性の 6 つの視点（環境評価）に基づくバランスのとれた保育環境づくりの取り組み (3) 子育て支援の充実：人的環境と居場所づくりの計画、実践 (4) 持続可能な保育実践と職務：職務の合理化・省力化 <p>に取り組むこととする。</p> <p>2. 具体的アクション計画</p> <p>●保育の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「保育は人なり：新任教員保育実践力育成プログラム」 <ul style="list-style-type: none"> ・保育におけるクラス担任の業務・責務は、小学校教育以降の教育活動とは異なり、結果・評価がきわめて多様・他視点で人間的・情緒的な側面を多く含んでおり、マニュアル化も困難を極め、新任保育者育ちを支援することは容易ではない。そのことを踏まえた上で、着任初年度からクラス担任を持つことはリスクが大きく、現状の採用制度を問い直し、持続可能な保育者採用・育成制度を構築する基本計画作成を目標とする。 ・クラス数及び専任教諭の数、人件費予算の関係で、現在は構造的に実現化は困難である「新任教諭育成期間」を設けて、着任初年度はクラス担任ではなく補助教諭として勤務する「新任教員保育実践力育成計画」を立ち上げる。 ・高い評価を受けている保育者の、「教育計画」に記述できないような個人的な経験知を共有化する手立てを模索し、新任教員の育成プログラムの質の 	<p>1. 基本計画</p> <p>『成長させてくださったのは神です。(コリント I 3 : 6)』の園聖句にある通り、子ども自身の育つ力を信じて待つことを基本に、次の 3 つの目標を達成すべく「環境」を通して保育を行ってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども一人ひとりが、神様から愛されたかけがえのない存在であることを知り、受け入れられていることを感じる。 ○身近な自然や環境との関わりを通して、健康な心身を育み、豊かな情操を培う。 ○子どもが、お互いの個性の違いを認め合い、共に育ちあう。 <p>その「環境」を豊かにするために、次の 4 つの項目について取り組んできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育の質の向上を図る (2) 保育環境の整備 (3) 子育て支援の充実 (4) 持続可能な保育実践と職務 <p>2. 具体的アクション計画</p> <p>(1) 保育の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「保育は人なり：新任教員保育実践力育成プログラム」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 から 7 月期、着任初年度からクラス担任を持つ新任教諭に、本園での担任経験のある補助教諭が寄り添い、連携してクラス運営できる「新任教諭育成期間」を設けた。 ・ 経験豊かな保育者の「教育計画」に記述できないような個人的な経験知を共有する保育カンファレンスをおこなった。 ・ 3 年間の教育課程の流れの中の期案、週案、その中でも特に日案、活動案を、カンファレンスの場で共に組み立てる取り組みを行った。 ・ 新任教員担当補助教諭からの評価と課題、新任教員からの聞き取りを統合させて「新任教員保育実践力育成計画」を作成開始。→「保育者のこころえ」の中の「保育の宝箱」として編集。 ・ 管理性、統一性、機能性、主体性、多様性、安心度の評価の視点から研修計画を立て、園内研修プログラムをくんだ。 	<p>1. 基本計画</p> <p>改定となった幼稚園教育要領との整合性を確認する</p> <p>2. 具体的アクション</p> <p>●新任、若手教員が、クラス担任を担いながらも、必要に応じてクラスを離れ、経験豊かな教員の保育活動を見学できる「園内研修制度」を実現する。#</p> <p>#</p> <p>#</p> <p>#</p> <p>#</p> <p>#</p> <p>#</p> <p>#</p> <p>#</p> <p>#</p>

2017年度事業報告（幼稚園）

充実を図ることを目指す。

- ・園内研修保育実践プログラム
新任教諭が、自分のクラスを離れ、高い評価を受けている保育者のクラスの保育実践を観察する期間を設ける、「園内実践研修制度」を試行する。

○「保育者のこころえ」の編集

- ・本園編集の「園生活のしおり」「安全管理計画書」「保育の宝箱」を柱としつつ、外部団体（浄土真宗本願寺派兵庫教区保育連盟発行）の「保育のこころえ」（エイデル研究所編）を参考資料として活用し、保育業務の指針として用いているが、これらをまとめ、一つの総合的な「保育者のこころえ」として編集し直すことを目標とする。
- ・「保育者のこころえ」として、以下の項目（案）について、その内容の充実を図る。
 - 「社会人としてのこころえ」「キリスト教保育の理解と実践」
 - 「安全管理」「保育活動：保育の宝箱」「食育活動」「保護者対応」

○「保育の宝箱」の量的、質的充実を図る。項目は以下の通り。

- ・「礼拝：祈り、賛美、聖話、聖書理解」
- ・「保育室環境構成：遊具、教材、素材、絵本、図鑑、動線、生活備品、壁面構成、衛生」
- ・「戸外遊び：砂場遊具、固定遊具、運動教具、自然活動、空間づくり、素材提供」
- ・「クラス活動：わらべうた、手遊び、運動、リズム、図書、造形、集団ゲーム、英語で遊ぼう、コミュニケーション」
- ・「園芸活動：野菜、花、樹木」
- ・「飼育活動：飼育動物、動物介在プログラム」
- ・「食育活動」
- ・「平和教育プログラム」

・現在、教学（保育活動）のリーダーとなる主事がクラス担任を兼任している体制である。主事が、新任教員育成をはじめ、園内研修や上記の保育内容全般のリーダーシップをとることができる環境を整備する。

●保育環境の整備（管理性、多様性、安心度、主体性、機能性、統一性の6つの視点（環境評価）に基づく）

- ・安全管理 ハザードマップの更新と危険察知の視点の強化を目指す。
- ・情報管理：ICT化の取り組みのファーストステップとして、指導要録の電子化を目指す。また、園児保護者へのメール配信についても、クラウド連絡システム「れんらくアプリ」の導入を開始する。
- ・保育室の安心度・家庭度を高めるための生活備品の導入など、空間創りを目指す。

○園舎移転、築23年を迎え、耐用年数を超えて使用している設備が多い。優先順位を定めて更新していく。

・園内研修実施状況

	日程	内容	講師	会場	備考
1	4月15日	自然素材の遊具 竹	菊間 馨	ぼうけんのもり	
2	4月22日	創造共生セミナー①	和久 洋三	幼稚園ホール	
3	5月20日	創造共生セミナー②	中木 秀成	幼稚園ホール	
4	5月27日	声楽	木村 正邦	幼稚園ホール	
5	6月17日	創造共生セミナー③	中木 秀成	幼稚園ホール	
6	6月24日	食育フィールド研修	谷田 創	広大農場	
7	7月15日	創造共生セミナー④	和久 洋三	幼稚園ホール	
8	7月24日	子どもの創造性と遊び		広瀬文庫	
9	8月22日	音楽リズム	森保 尚美	幼稚園ホール	
10	8月23日	特別支援	河村 暁	広瀬文庫	
11	9月16日	水辺の生き物観察		古川せせらぎ公園	
12	10月28日	特別支援	河村 暁	幼稚園全体	園開放
13	12月2日	キリスト教保育の理解	高田 憲治	広瀬文庫	
14	1月13日	保育の宝箱		広瀬文庫	
15	2月4日	野外活動と安全管理	菊間 馨	ぼうけんのもり	
16	3月3日	評価・点検とアクション		広瀬文庫	

○「保育者のこころえ」の編集

- 「社会人としてのこころえ」
- 「キリスト教保育の理解と実践」
- 「安全管理」
- 「保育活動：保育の宝箱」
- 「食育活動」
- 「保護者対応」

3年計画の初年度であり、全体の3分の1ほど着手。電子データとして共有し、必用に応じて更新をおこなっている。

- ・2017年度までは教学（保育活動）のリーダーとなる主事がクラス担任を兼任している体制であった。主事に専念できる体制を構想し、2018年度以降の人事計画を立てることができた。

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

●2年目として、さらに充実できるよう、編集を継続する。#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

#

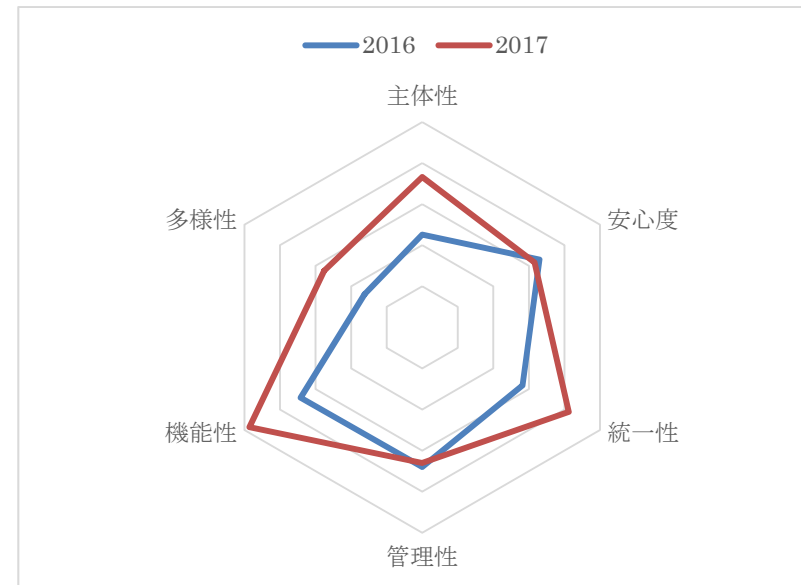
#

- ・園庭の遊具、プールは設置後 25 年を超えてくる。安全点検と必要な更新の計画を立てる。
- ・給食設備 食器乾燥機、コンベック、オープン（いずれも 1993 年度製）の買換え計画を進める。食育活動の充実のために、多目的に使えるキッチンスペース新設の計画を進める。（みぎわプロジェクトの中に盛り込む）
- ・照明の LED 化を段階的に進める計画を立てる。
- ・空調設備（全 16 台、増築園舎 1 室分の 1 台を除いてすべて 1993 年度製）の買換え計画を立てる。
- ・園舎床、フローリングのメンテナンスが、現状のワックスがけでは限界を迎えている。研磨、コーティングなどの様々な対策を検討し、計画を立てる。
- ・3 台の園バスに 1 台分のガレージしかない現状を踏まえ、幼大連携拠点、子育て支援スペースを兼ね備えた新しいバスガレージの具体案を検討することを目標とする。（みぎわプロジェクトの中に盛り込む）

●保育環境の整備（管理性、多様性、安心度、主体性、機能性、統一性の 6 つの視点（環境評価）に基づく）

保育環境 自己評価・自己点検
2017 年度 クラス担任総合（9 クラス）

評価・点検シート



改善点 2017 年度

安心度、管理性の 2 項目で昨年度を下回る評価となっている。視覚教材、保育の見える化、情報発信について、創意工夫すること、という課題がある。

全体的に厳しい評価となった多様性（一人ひとりの子どもに寄り添う、保育活動の引き出しの多様さ、多様な遊び環境の構成、臨機応変な保育実践）では、わらべうた、素話、リズム活動をはじめ、クラス単位での活動のレパートリーを増やし、自然物をふんだんに取り入れ、制作素材の多様化を図ること。

2018 年度の目標

- 主体性** 園庭などの外環境の変化に、保育者自らが気づき環境構成すること
- 安心度** 必要に応じた視覚教材の整備 自己、怪我を未然に防ぐため、ハザードマップを見直し、全教職員で共通認識を
- 統一性** 保育室環境を、3 学年の一貫した育ちの中で組み立てること
- 管理性** 定置管理の習慣づけ
トイレの扉の内側や便器の中の清掃・消毒
クラス懇談会の時など、代替の保育者に、日案を伝える
時間にゆとりのある保育計画を立てる
- 機能性** 視覚支援に積極的に取り組む
- 多様性** 絵本以外に、ペープサートやパネルシアターなど、多様な視覚教材を用いる
その時の季節、生活体験、年齢に適した手遊び活動を行う
その時の季節、生活体験、年齢に適したリズム活動を行う
その時の季節、生活体験、年齢に適したわらべうた遊びを行う
前年度よりも、わらべうたの引き出しを増やす
ピアノ以外の楽器に触れる

#

改善点 2018 年度へ向けて

安心度と管理性の 2 項目で、昨年度を下回っている。ではあるが、達成度が 80→78%と若干下がっている。視覚教材、保育の見える化、情報発信について、創意工夫すること、という課題がある。

全体的に厳しい評価となった多様性（一人ひとりの子どもに寄り添う、保育活動の引き出しの多様さ、多様な遊び環境の構成、臨機応変な保育実践）では、わらべうた、素話、リズム活動をはじめ、クラス単位での活動のレパートリーを増やし、自然物をふんだんに取り入れ、制作素材の多様化を図ること。

2018 年度の目標

- 主体性** 園庭などの外環境の変化に、保育者自らが気づき環境構成すること
- 安心度** 必要に応じた視覚教材の整備
- 統一性** 保育室環境を、3 学年の一貫した育ちの中で組み立てること
- 管理性** 定置管理の習慣づけ
トイレの扉の内側や便器の中の清掃・消毒
クラス懇談会の時など、代替の保育者に日案を伝える
時間にゆとりのある保育計画を立てる
- 機能性** 視覚支援に積極的に取り組む
- 多様性** 絵本以外に、ペープサートやパネルシアターなど、多様な視覚教材を用いる
その時の季節、生活体験、年齢に適した手遊び活動を行う
その時の季節、生活体験、年齢に適したリズム活動を行う
その時の季節、生活体験、年齢に適したわらべうた遊びを行う
前年度よりも、わらべうたの引き出しを増やす
ピアノ以外の楽器に触れる

●ヒヤリハット報告の件数が事故発生報告の

	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理 ハザードマップの更新と危険察知の視点の強化に取り組むことができた。 ・事故・怪我発生件数が微増。この要因の一つは、小さな怪我でも医師の診察を受けることを徹底したことによる。骨折の2件は、サッカーボールが手の小指にあたっての骨のヒビ、園庭の丘で転倒し左二の腕にヒビであった。どちらも手術等の必要はなく、固定で経過観察、全治1か月。火傷は、ロープを握って滑り、手のひらに負ったもの。マダニの疑いが1件。 ・過去5年間に渡り、年中4歳児の件数が多かったため見守り、環境の安全対策に取り組んだ結果、他学年は増加したが年中は12→8件と減少。 ・年少および年長は増加している。 ・擦り傷、切り傷の外科受診が2016年度5件→2017年度11件と倍増。保護者の意識の変化に伴い、園での消毒で済ませず念のための受診。 ・眼科受診も8件→10件と増加している。遊具や他児の指ががん部に接触するケースが多い。眼は、特に専門医による診断を必要とする部位。今年度は10件とも大事に至らず再受診の必要はなかった。 ・皮膚科への受信が10件。毛虫、蜂、アオバアリガタハネカクシなど、虫刺されが目立つ。 (別紙 資料参照) <ul style="list-style-type: none"> ・情報管理：ICT化の取り組みのファーストステップとして、指導要録の電子化を、2017年度入園児より導入することができた。また、園児保護者へのメール配信についても、クラウド連絡システム「れんらくアプリ」を導入し、活用できた。 ○園舎移転、築23年を迎え、耐用年数を超えて使用している設備が多い。優先順位を定めて更新していく計画を立てることができた。2018年度より順次実施予定。 ・3台の園バスに1台分のガレージしかない現状を踏まえ、幼大連携拠点、子育て支援スペースを兼ね備えた新しいバスガレージの具体案を検討することを目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ●子ども・子育て支援と幼大連携の融合プロジェクトの計画立案 <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育及び未就園児親子広場の質的充実、幼大連携が展開できる、環境づくり（幼大アクセス、子ども子育て支援専用スペース、保育実習準備室、保育実習カンファレンスルーム）を一体的総合的にとらえ、長期的な視点で計画の原案を立てることができた。 ・人的環境の整備 幼心との連携を強化し、学生ボランティアの継続的な確保を実現するため、大学の教員との協議を重ねることができた。 ・預かり保育利用者の増加動向をにらみ、国の定める「2号認定幼児」に該当する本園の「利用条件B：保育を必要とする幼児」のチェックリストを作成し、保護者に提示することができた。 ●持続可能な保育実践と職務の合理化 <ul style="list-style-type: none"> ・保育情報管理システム「れんらくアプリ」の導入によって、保護者、家庭との連絡体制の安定化を図ることができた。 ・職務の合理化①：ICT化を段階的に計画、実施し、専任教諭の事務負担減を図るその第一歩に踏み出せた。 ・職務の合理化②：非常勤の事務担当者が、経理をはじめとする幼稚園事務を担い、さらに保健衛生、給湯、保護者対応、来客対応の窓口となっている現状を踏まえ、業務の分担 	<p>件数を大幅に下回っている。安全に対する意識の向上、危険箇所や行為の共通認識、未然に防ぐ保育者の見守り、連携、怪我を起こしにくい子どもを育てる安全指導を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●骨折、縫合、火傷の件数を0とできるよう取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・年少、年長の発生件数を減少させることができるよう、事故・ケガを未然に防ぐことができるよう見守り、安全対策を講じる。 ・眼科受診数を減らす。 ・園庭の植え込みや森の中での生き物との接触、特に蜂や毛虫に留意。 ・スズメバチトラップなどの取り組み。 ・園児が最も活動的に過ごす午前中の自由遊びの時間帯、園庭の木立や草むら空間を重点的に見守る。 ・降園時間が近い、緊張感が途切れた時間帯の園児の行動に気を付ける。 ●「連絡アプリ：出欠席管理」と「タイムプロ：預かり保育利用料等自動計算処理&振替請求データ作成」と、現在二種類のプログラムを導入しているが、環境が整い次第、プログラムを一本化し、業務委託費の削減を図る。2021年度を目途。 ●大学側と課題を共有する。 ●他の保育者養成機関が取り組む子育て支援センターとしての事業を調査する。
--	--	---

と合理化、省力化を実現するため、主事がクラス担任を持たず、主事の職務に専念できる体制を 2018 年度以降の計画に盛り込むことができた。

- ・安全管理上、増加する預かり保育の利用児に対応できる人的環境整備として、園児 20 名につき 1 名の保育者から 10 名につき 1 名の体制とすることができた。

●特別支援教育活動

要支援児数

	園内での特別支援	児童相談所	療育施設通級	園内での専門員による面談
未就園児		4	4	1
3 歳児	10	6	2	2
4 歳児	9	5	5	2
5 歳児	7	4	3	4
卒園生				2
合計	26	19	14	11

10 月 オープン型発達相談と交流会 参加家族 25 面談数 7

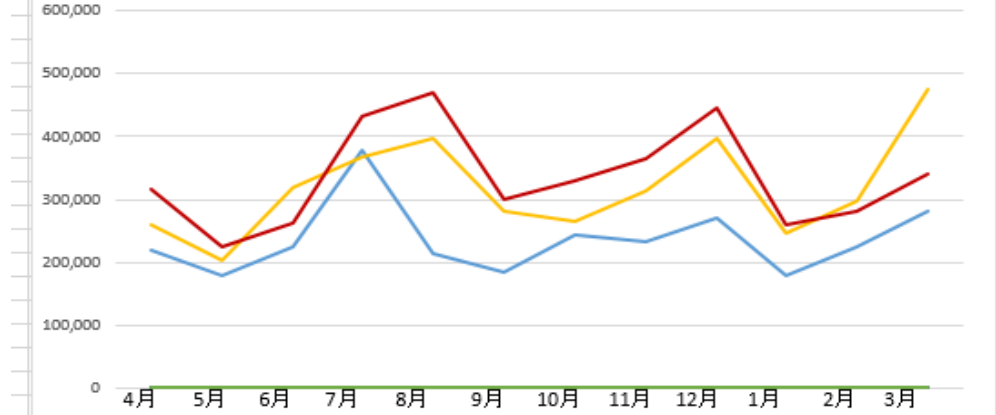
- ・支援を必要とする園児、保護者への、療育施設や専門家との連携を強化し継続することができた。

●預かり保育実施状況

預かり保育利用状況の推移

	2015年度			2016年度			2017年度			2015-2017 利用料収入 増減
	開設日数	延利用者数	利用料	開設日数	延利用者数	利用料	開設日数	延利用者数	利用料	
4月	20	258	219,900	19	301	261,100	19	351	317,100	97,200
5月	18	271	179,500	18	298	204,400	19	340	225,800	46,300
6月	22	333	226,100	22	434	320,100	21	384	261,900	35,800
7月	22	385	377,000	20	402	367,200	19	416	432,800	55,800
8月	13	167	215,100	16	300	398,200	15	363	469,600	254,500
9月	19	266	185,400	20	392	281,800	20	458	299,000	113,600
10月	21	349	242,800	20	396	266,400	21	473	330,300	87,500
11月	19	386	231,700	20	481	313,600	20	515	365,000	133,300
12月	19	347	270,100	19	481	396,800	20	547	445,600	126,700
1月	19	265	179,800	19	346	247,400	19	362	258,900	79,100
2月	20	340	224,800	19	458	298,000	18	438	282,300	57,500
3月	19	327	282,600	19	502	476,500	19	425	340,000	57,400
合計	231	3694	2,834,800	231	4,791	3,831,500	230	5,072	4,028,300	1,144,700

預かり保育利用料推移



2017年度事業報告（幼稚園）

●預かり保育及び未就園児親子広場の質的充実、幼大連携が展開できる環境創り計画を、個別に取り組むことは多くの無駄を生じさせる。一体的総合的にとらえ、長期的な視点で計画を立てて、具体的に進めていく第一歩をしるすことを目標とする。

・人的環境の整備 幼心との連携を強化し、学生ボランティアの継続的な確保を実現する。

・増加する預かり保育利用者の動向をにらみ、国の定める「2号認定幼児」に該当する本園の定める「利用条件B：保育を必要とする幼児」の、見直しを図る。チェックリストを作成し、一定以上のポイントであれば利用条件と見なすといった、客観的な指標を提供する。

・保育時間終了後、安心して過ごせる環境づくりに段階的に取り組む。（以下、みぎわプロジェクトの中心的課題）

①量的に拡大する預かり利用児の居場所づくり、生活動線の視点、安全管理の視点から見た子育て支援専用スペースの計画案を立てる。

②預かり保育の活動の質の向上を図る。幼大連携や地域との交流など、多様な活動内容が盛り込める可能性を探ることを目標とする。（国際教養学部 環境保全、英語教育、幼児教育心理学科の音楽や児童文学のアクティブラーニング等）

・未就園児の育児相談と居場所づくり、保護者同士の交わりの場を提供するオープンスペースと人的環境づくりの計画を立てる。

・幼大連携による子育て支援を実現するための環境整備計画を立てる。

①学生ロッカー、カンファレンスルームの設置計画を立てる。

・幼大連携プロムナードの整備計画を進める。人文館裏からグラウンド駐車場までの整備を進め、物理的・心理的に幼稚園と大学が一体化するシンボルとしてアクセス環境を整備する計画を立てる。

・みぎわ会木工部のアトリエとしても活用しているバスガレージを、3台分のスペースとして新築する計画の中に、学生のロッカーやカンファレンスルーム、子育て支援スペースを併用できる空間づくりを整備する計画を立てることを目標とする。

・預かり保育、課外活動への学生の参加とアクティブ・ラーニングの場の提供として、環境保全プロジェクトや食育、英語教育などの展開を計画、実施する。

●持続可能な保育実践と職務の合理化

・保育情報管理システム「れんらくアプリ」の導入によって、保護者、家庭との連絡体制の安定化を図る。

・職務の合理化①：ICT化を段階的に計画、実施し、専任教諭の事務負担減を図る。指導要録の電子化を第1歩に、保育記録、指導計画等の教学事務を省力化の可能性を探り、段階的に取り組むことを目標とする。

・職務の合理化②：非常勤の事務担当者が、経理をはじめとする幼稚園事務を担い、さらに保健衛生、給湯、保護者対応、来客対応の窓口となっている

●幼小連携

・就学への段差を乗り越えていくことができ、安心して小学校生活のスタートが切れるよう、地域の早稲田小学校との幼小連絡協議会、幼小交流プロジェクト、就学連絡会を重ねていくことができた。

		会場	
4月	入学式	小学校	前年度5歳児担任の式への列席
4月	幼小連絡協議会	小学校	アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの取り交わしと年間交流プログラムの確認
6月	1年生来園	幼稚園	ぼうけんのもりの授業
7月	2年生街探検	幼稚園	幼稚園ってどんどこ
10月	交流授業1	幼稚園	幼稚園で遊ぼう
11月	交流授業2	幼稚園	ぼうけんのもりで遊ぼう
12月	交流授業3	幼稚園	「おもちゃランド」への招待
3月	交流授業	小学校	国語科、生活科「おもちゃランド」
3月	卒園礼拝	幼稚園	校長列席
3月	卒業式	小学校	園長列席 *主事は牛田小へ

2017 年度事業報告（幼稚園）

現状を踏まえ、業務の分担と合理化、省力化を計画的に実施する。

- ・主事が教学の中長期教員指導計画を推進することができる環境を整える。
- ・連携の強化：チームティーチング、障害児加配、預かり保育、バス添乗など、非常勤教員の担う業務とシフトが、ワーク・ライフバランスに配慮しながら合理的、機能的に組まれるよう、また、非常勤教諭の声を細かに拾い上げ、専任教諭との応答的な意思の疎通が図られるような多様な形式のカンファレンスを実施し、主事の下で一極集中的に管理する。
- ・増加する預かり保育の利用児に対応することができる環境整備と予算措置を計画する。

年間預かり保育利用児数は、2015 年度 3694 名、利用料収入 2,834,800 円となっているが、2016 年度は 4500 名、4,000,000 円を超える見込みとなっている。通常の保育業務に充てる教育研究経費からその活動費を支出しているが、預かり利用料及び補助金の預かり保育活動割部分を根拠とし、必要な事業計画と予算執行ができる環境を整えることを目標とする。

- ・支援を必要とする園児、保護者への、療育施設や専門家との連携を強化し継続する。
- ・就学への段差を乗り越えていくことができる幼児期後期の育ちを保障し、幼小連絡協議会、幼小交流プロジェクト、就学連絡会を重ねていくことを目標とする。中でも、特別支援を必要とする園児に対しての、入学予定小学校への細やかな情報提供と、保護者支援を継続する。
- ・就学後の参観や保護者支援など、アフターフォローできる体制を整える。

○年度別 発生件数比較

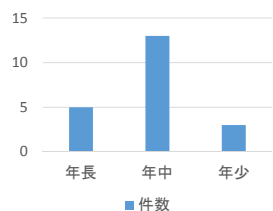
年度	発生件数	備考
2013年度	28件	園では防ぎたいと考え安全対策に取り組んでいる骨折、縫合、マダニは減じている。報告件数が増加しているのは、小さな怪我でも、専門医の判断、処置に委ねることを徹底しているため。特に、虫刺され、目の周囲の打撲、異物混入など、眼科に必ずかかるように取り組んでいる。
2014年度	21件	
2015年度	25件	
2016年度	31件	
2017年度	33件	

2017年度は同児の再発が多い
発生状況、傾向 カラカラの丘、草むら、木登り

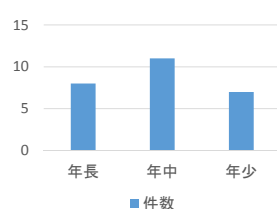
2013年度	骨折0件	縫合5件	火傷0件	CT5件	X線5件	マダニ1件
2014年度	骨折2件	縫合5件	火傷0件	CT2件	X線2件	マダニ1件
2015年度	骨折0件	縫合1件	火傷1件	CT1件	X線3件	マダニ4件
2016年度	骨折0件	縫合2件	火傷0件	CT3件	X線5件	マダニ1件
2017年度	骨折2件	縫合2件	火傷1件	CT0件	X線4件	マダニ1件

*1:マダニ1件は「マダニの疑い」 *2:ブト1件、蜂2件、イラガ1件

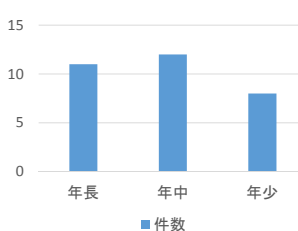
学年別件数(2014)



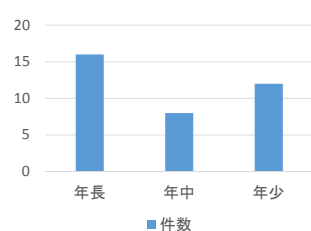
学年別件数(2015)



学年別件数(2016)

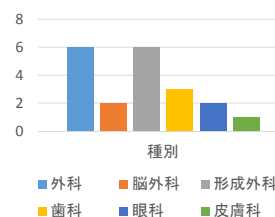


学年別件数(2017)

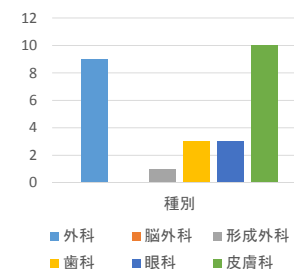


3年連続トップの年中が最少。年長児の件数が増加。

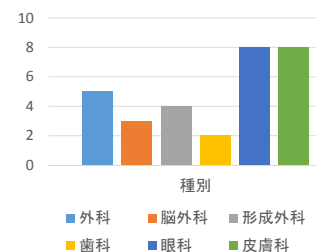
怪我の種別(2014)



怪我の種別(2015)

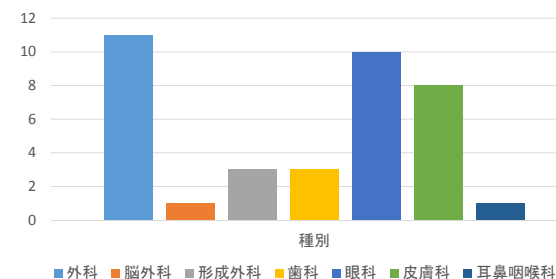


怪我の種別(2016)

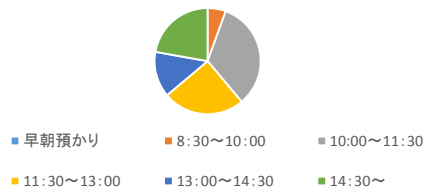


眼科、皮膚科の事故・怪我は相変わらず多い。外科が増加。手足ならば受診しない程度の怪我が、頭部(主に顔、眼)で多発し、大事を取って受診。

怪我の種別(2017)



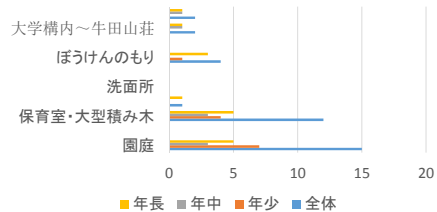
○時間帯別(2017年度) 時間帯別



10:00~11:30 に 1/3 発生。預かり保育中に増加。

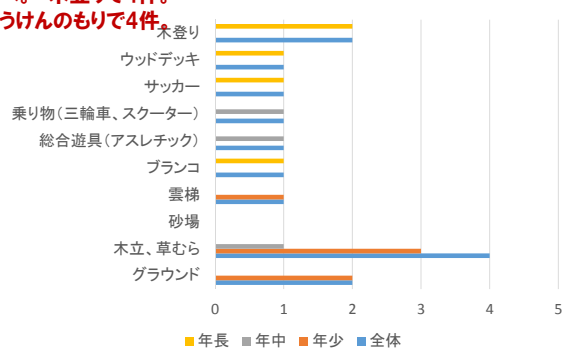
○怪我の起きた場所・空間別

場所・空間別(2017)



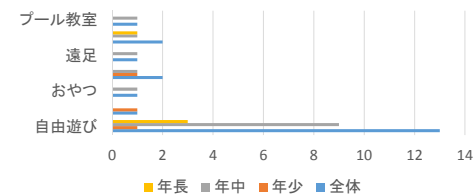
トップが保育室から園庭へ。木登りで4件。ぼうけんのもりで4件。

園庭・遊び別(2017)

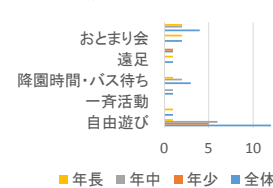


○活動状況別

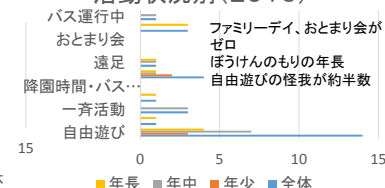
活動状況別(2014)



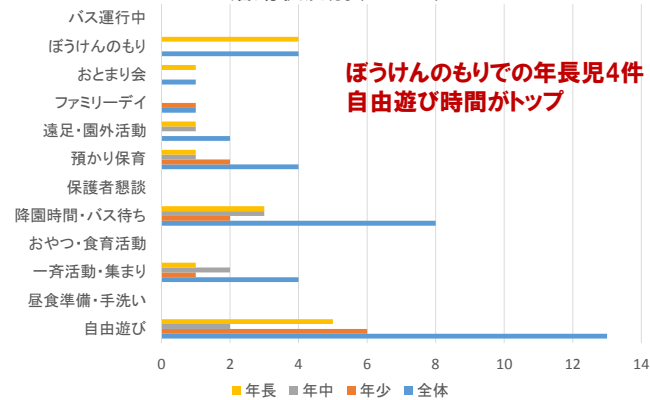
活動状況別(2015)



活動状況別(2016)



活動状況別(2017)



ぼうけんのもりでの年長児4件
自由遊び時間がトップ